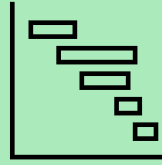


矯正歯科治療に伴う 一般的なリスクや副作用について



痛みや不快感について

最初は矯正装置による不快感、痛み等があります。
多くの場合、数日間から1週間程度で慣れていきます。



治療期間・結果について

- ◆ 歯の動き方には個人差があるため、予想された治療期間が延長することがあります。
- ◆ 装置の使用状況、顎間ゴムの使用状況、定期的な通院等、矯正治療には患者さんの協力が非常に重要であり、それらが治療結果や治療期間に影響します。また、その他の理由から当初予定した治療計画を変更する可能性があります。



虫歯・歯周病・その他のお口の症状について

- ◆ 治療中は歯が磨きにくくなり、むし歯や歯周病のリスクが高まりますので、自宅で丁寧に磨いたり、定期的なメンテナンスを受けたりすることが重要です。また、歯が動くと隠れていたむし歯が見えるようになることもあります。
- ◆ 歯を動かすことにより歯根が吸収して短くなることがあります。また、歯ぐきがやせて下がることもあります。改善は難しいため、定期的な観察が必要になることがあります。状況によっては治療方針変更や、治療の中断を提案させていただくことがあります。
- ◆ ごくまれに歯が骨と癒着していて歯が動かないことがあります。その場合、抜歯部位や治療方針、治療方法・期間が変更になります。

- ◆ごくまれに歯を動かすことで神経が変性して壊死し、歯が黒くなることがあります。その場合、根管治療が必要になることがあります。
- ◆治療中に金属等のアレルギー症状が出る場合があります。その場合、治療方針を変更するか、状況によっては治療を中断することがあります。
- ◆治療中に「顎関節で音が鳴る、あごが痛い、口が開けにくい」などの顎関節症状が出る場合があります。



後戻りについて

- ◆ 装置を外した後、保定装置を指示通り使用しないと後戻りが生じる可能性が高くなります。その場合は再治療が必要になり、あらためて矯正料金が必要になります。
- ◆ あごの成長発育によりかみ合わせや歯並びが変化する可能性があります。
- ◆ 治療後に親知らずが生えて、ガタガタが生じる可能性があります。加齢や歯周病等により歯を支えている骨がやせるとかみ合わせや歯並びが変化することがあります。その場合、再治療等が必要になることがあります。



その他

- ◆ 歯の形を修正したり、咬み合わせの微調整を行ったりする可能性があります。
- ◆ 矯正診断上必要な場合には、抜歯治療を選択することがあります。
- ◆ 装置を外す時に、エナメル質に微小な亀裂が入る可能性や、かぶせ物の一部が破損する可能性があります。その場合、矯正治療中もしくは治療後に歯科治療が必要になることがあります。
- ◆ 装置が外れた後、現在の咬み合わせに合った状態のかぶせ物やむし歯の治療などをやりなおす可能性があります。
- ◆ 矯正装置を誤飲する可能性があります。
- ◆ 矯正歯科治療は、一度始めると元の状態に戻すことは難しくなります。